

---

# 銀魂一攘夷志士一

minami

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

銀魂―攘夷志士―

### 【Nコード】

N0189S

### 【作者名】

minami

### 【あらすじ】

新八は1つの木のハコを見つけ

その中には2枚の写真と真っ赤な服があった。

その写真に写っていたのは銀時、桂、高杉、坂本、あと黒髪の男が写っていた。

銀魂―攘夷志士―第1話(前書き)

こんにちはminamiです。

小説書くのが始めてです。

これからよろしくお願いしますm( )m

## 銀魂―攘夷志士―第1話

ガラガラガラ

新八「おはよう銀さん、神楽ちゃん」

銀時「おはよう」

神楽「おはようアル」

新八「今日は大掃除の日ですよ銀さん」

銀時「ああ、そうだったなあ」

神楽「めんどくさいアル」

銀時「散歩いって来る」

新八「え、掃除は？」

銀時「お前ら2人で先やってくれ」といって銀時は万事屋から出て行った

新八「もう、2人で掃除始めよう神楽ちゃん」

神楽「めんどくさいアル」

新八はやる気のない神楽をみて1人で掃除を始めた。

新八「何だこれ」

たんすの奥にあったのは古い木の箱が置いてあった

開けて見るとほこりまみれの写真2枚ぐらいと真つ赤な服が入っていた

新八「何だこれ？写真と真つ赤な服これは……」

新八は写真のほこりをとって見ると……

新八「これはおさいころの桂さんと高杉さんと銀さんとあとこれは誰だ？」

1枚目の写真には桂と高杉と銀時と髪の長い人が写っていた

新八はすぐ2枚目を見た

新八「こっちは銀さんと桂さんと高杉と坂本さんあとこれはだれ？」

2枚目は銀時と高杉と桂と坂本と短い髪の毛の人が写っていた

新八は次に真つ赤な服を見てみると、

新八「これは赤色じゃない血だ……」と新八が黙りこんだ。

神楽がすぐ反応して「銀ちゃん人殺してないよね」と神楽が暗そうに言った

新八「……」

すると、

ガラガラガラ

銀時「ただいま」

新八「銀さんこれ……この写真の人物とこの服は何ですか？」

銀時「……」

新八「僕達に銀さんに何があつたのか教えてください」

銀時「ああ。この1枚目の髪の毛の長い人は俺、ズラ、高杉の師だ。

次の2枚目の短い髪の毛の奴は奇童だ攘夷戦争で知り合つてなあ」

新八「銀さんつてほんとに攘夷志士だつたんですね……」

万事屋の不陰気がだんだん暗くなつた

すると

ガラガラガラ

桂が入ってきた

桂「すまん銀時ちよつとだけ隠れさせてくれ

真選組に追われててな」

ガラガラガラ

沖田「旦那あ、ここに桂来ませんでしたかあ？」

銀時「来てないが」

土方「確かにここに入ったはずだが・・・」

銀時「だから来てないって」

沖田「帰りましょうぜ、土方さん」

土方「ああそうだな」

そのまま真選組は帰った

銀時「帰ったぞズラ。もううっとうしいから来ないでくれるかな？」

桂「ズラじゃない桂だ、それよりも銀時、噂で誰かが攘夷志士を集めているらしいが」

銀時「俺たち集めてどうすんだ？」

桂「たくらみはわからんが銀時、気をつけていたほうがいい」

銀時「奇竜には伝えたか？」

桂「ああ、じゃあこれで俺は失礼する」

ガラガラガラ

桂が出て行った



銀魂―攘夷志士―第1話（後書き）

1話終わりです。

最後まで見てくださった方本当にありがとうございますm（）m（）

m

奇竜は私の自作キャラです。

小説書くのが最初でも言いましたけど初めてです。

次回は奇竜さんが出てきます。

次回もよろしくお願いしますm（）m（）m

銀魂―攘夷志士―第2話（前書き）

銀魂―攘夷志士―第2話目です

ね  
今回は予告で書いたとおり奇竜さん登場です  
ね^^

## 銀魂―攘夷志士―第2話

そのころ真選組では……

「噂知っているか？」

「何の？」

「誰かが攘夷志士の最強の5人を集めているって」

「まあ噂だから」

たまたま土方がその話を聞いていた。

土方はすぐに山崎に攘夷志士の最強の5人の情報を探させた

それから10分後……山崎が戻ってきた

山崎「副長、攘夷志士の最強の5人の情報集めてきました」

土方「早く読め」

山崎「攘夷志士の最強の5人は武神五侍といわれたそうです。

桂 小太郎、

高杉 晋助、

坂本 辰馬、

藤原 奇竜、

白夜叉です。」

土方「白夜又って誰だ？」

山崎「5人目の白夜又は本名を名乗らないらしいです

あと白夜又は銀色の髪で目は血にそまったかのように赤いらしいです」

土方「まさか、万事屋のヤローじゃないか？」

山崎「白夜又が旦那の可能性は低くはありません」

土方「白夜又に繋がる人物などを調べて来い山崎」

山崎「はい！」

そのころ……

団子屋の主人「お客さんそんなによく団子食べますねえ」

「たかが60こじゃないですかあ」

団子屋の主人「私、腹壊しても知りませんぜえ」

「旦那、万事屋銀ちゃんはどこにあるかしってますかあ？」

団子屋の主人「ここからまっすぐ行って2つ目の角で曲がったらありますぜえ」

「ありがとう。金はここにおいとくぜえ」といって団子屋を後にした。

男は万事屋に向かう途中ある男とであった。

「奇竜殿とお見受けしますが？」

奇竜「そうだけれどもお？」

「私はあなた方のような強い方を集めてまして」

奇竜「俺になんかしろって言うのかあ？」

「まあ、そうゆうことですな

なので一緒にきてもらえますか？」

奇竜「俺はいそがしんでなあ」

「まあ、そういつてられるのもあと少しですが」

そう言うと男はどこかへ消えてしまった

しばらくすると万事屋についた

ピンポン

「はい」と言って銀時が来た

奇竜「久しぶりだな銀時」

銀時「久しぶりじゃねーか奇竜

ってかなんか俺に用か？」

奇竜「ああ、ちょっと話がある。  
外に出てくれないか？」

銀時「おう」

奇竜「ズラからは話ききしてるよなあ？」

銀時「ああ」

奇竜「あの噂はほんとうだったらしいぜえ。

ここに向かうときある男とあつてなあ。

一緒に来いと言われてなあ。まあことわったけど

銀時あと坂本にはこの話言っただか？」

銀時「まだだけど」

奇竜「まあ、あいつの事だ大丈夫だろう」

銀時「ああそつだな」

銀魂―攘夷志士―第2話（後書き）

最後まで読んでくださってありがとうございますm（）（）m  
次回予告 次はあまりきまってません^^

たぶん高杉さんがでます（出るかわからないけど・・・）

銀魂―攘夷志士―第3話(前書き)

銀魂―攘夷志士―第3話目ですね^^  
高杉さんでてくるかなあ・・・?



### 銀魂―攘夷志士―第3話

そのころ快援隊の船では……

陸奥「頭、地球へいくぜよ」

坂本「アハハハ、今度は金時たちとあえるかのお」

陸奥「ほんとに頭はのん気じゃの」

坂本「アハハハ、そうかのお？」

坂本と陸奥が話してるともう地球が見えてきた

坂本「地球に来るの久しぶりじゃのお」

あつとゆう間に地球についた

陸奥「頭どこへ行くぜよ？」

坂本「金時の所じゃ」

陸奥「頭を狙っている奴がいるらしいしじゃら気おつけて行くぜよ」

坂本「じゃあ行つて来るぜよお」

といつて万事屋に向かう坂本だった

万事屋から50m所だった、

男が目の前に現れ

「坂本殿とお見受けします」

坂本「そうじゃが？」

わしに何かようかのお？」

「まあ、頼みがあつて

私と一緒に来てくれませんか？」

坂本「そんなこといわれてもお

まあこつちも用事があつてのお」

謎の男「そうですか・・・じゃあ今は見逃します。」

そう言うと男はどこかへ消えてしまった

坂本は万事屋についた

ピンポーン

「はい」銀時といった

坂本「久しぶりじゃのお、金時！」

銀時「金時じゃねーよ銀時だお前何回人の名前間違えれば気がすむんだよ

それより奇竜来てるぞ」

奇竜「久しぶり辰馬あ！」

坂本「久振りじゃのお奇竜！」

それよりさっきここに向かうとき男とあったのお。

一緒に来いと言われてのお」

奇竜「辰馬もかあ

やっぱり俺達狙われてんだなあ」

すると一通の電話がかかってきた

銀魂―攘夷志士―第3話（後書き）

最後まで読んでくださってありがとうございますm（）（）m  
やっぱり高杉さん出せなかった・・・  
次回予告今度こそ高杉さん出します！

銀魂―攘夷志士―第4話（前書き）

どうも minami です。

銀魂―攘夷志士―第4話で

やっと高杉さんの登場です^^

## 銀魂―攘夷志士―第4話

そのころ真選組では……

山崎「土方さくん」

土方「山崎、白夜叉の情報が入ったか？」

山崎「白夜叉の情報はありませんが

藤原奇竜と坂本辰馬と高杉が江戸に居るとい  
う情報が入ってきました」

土方「そうか……」

(たしか・坂本は貿易会社の社長だったなあ……)

土方「山崎いますぐ快援隊の船に行け」

山崎「はい」

山崎はすぐに快援隊の船の方角へ向かった

そのころ……

プルプルプル

高杉のもとへ1通の電話が着た

高杉「はい、もしもし」

男「高杉さんですね」

高杉「誰だてめえは？」

男「そんなことは置いといて

頼みがあるんです」

高杉「その頼みはなんだあ？」

男「ーを潰してほしいんです」

高杉「いいだろう」

男「じゃあ、吉田松陽の塾のに来てください

ほかの人も招待しときます」

と言って電話は切れた

万齋「晋助どこに行くでござるか？」

高杉「同窓会だあ」

と行って高杉は吉田松陽の塾に向かった

そのころ万事屋では・・・

銀時「はい万事屋銀ちゃんです」

男「白夜叉ですね」

そこに坂本さんと奇竜さんもいますよね？」

銀時「誰だてめえは？」

男「まあ誰でもいいじゃないですか

いまっすぐ吉田松陽の塾に来てください

もちろん3人で」

銀時「もし来なかったらどうする？」

男「まあ、あなたの大切なお仲間さんが消えるだけです」

と言つて電話は切れた

奇竜「男が動き出したかあ……」

指示は？」

銀時「吉田松陽の塾に來いだつてよ……」

ガラガラガラ

桂「銀時、お前も電話があつたのか？」

銀時「ああ」



銀魂―攘夷志士―第4話（後書き）

最後まで読んでくださってありがとうございますm（）―（）m  
やっ和高杉さん出せた！

次回予告

男の企みが明らかに！！

銀魂―攘夷志士―第5話（前書き）

どうもお minami です

銀魂―攘夷志士―第5話です^^

男の企みが明らかになります（たぶん……）

銀魂―攘夷志士―第5話

桂「ではいくかあ

銀時、奇竜、坂本」

銀時「おう」

奇竜「ああ」

坂本「そうじゃのお」

銀時、桂、坂本、奇竜は吉田松陽の塾の跡地に向かったのであった。  
・・・

そのころ・・・

山崎（ここかあ、快援隊の船はあ）

陸奥「頭に何か用かのお？」

山崎「ああ・・・はい」

陸奥「頭は出かけたぜよ」

山崎「そうですか、坂本さんはどこにいったか知ってますか？」

陸奥「確か、万事屋に行ったぜよ」

山崎（旦那のところかあ）「ありがとございました」

山崎はすぐに万事屋の方へ向かった

そのころ吉田松陽の塾では……

高杉「よお、銀時、ズラ、坂本、奇竜久しぶりじゃねーか」

桂「高杉いい」

謎の男「まあまあ、いきなり喧嘩ですか？」

銀時「てめーは」

謎の男「ああ、自己紹介が遅れましたね。

私の名前は破者でいいです。」

奇竜「破者さんよお

俺達を集めて何を企んでいるんだあ？」

破者「まあこつちに来てください」

そう行つて銀時たちは誘導されました

そこには大きな船がありました

破者「まあここにはいつてください」

銀時たちは言われるままにその部屋に入った

破者「これから頼みの内容を説明します

あなた達にはこれからターミナルを破壊して欲しいのです」

銀時「はあ？どう言うことだ？」

破者「だからターミナルを破壊して欲しいのです

どうせやらないといけないんですよ？

ひとじちがいるし？」

銀時「……」

坂本「銀時ひとじちがいるんじゃない

ここは従うしかないぜよ」

破者「坂本さんの言う通りですね

各自に部屋を用意してます

まあ今日は休んでいってください」

銀時「こんな所でねっかよお」

破者「まあそんな個と言わずに」

桂「しょうがない部屋に向かおう」

銀時達は各自の部屋に向かった

そのころ……

ピンポン

山崎（旦那あいないのかなあ）

山崎は万事屋の中に入った

机の上には1枚の写真があった

山崎「これは・・・」

山崎はすぐに新撰組に戻った

山崎「土方さん」

土方「山崎か、白夜叉の情報が入ったか？」

山崎はすぐに写真を見せた

土方「これは桂と高杉と坂本と藤原と万事屋じゃないか・・・

万事屋は居たのか？」

山崎「旦那は居ませでした」

土方「そうか・・・」

銀魂―攘夷志士―第5話（後書き）

最後まで読んでくださってありがとうございますm（）  
次回予告

坂本の裏の人格発覚！！  
5人の運命は？

銀魂―攘夷志士―第6話(前書き)

どうも minami です

銀魂―攘夷志士―第6話です^^

だれか観想を書いてくれ



## 銀魂―攘夷志士―第6話

銀時は部屋に着いた

銀時（新八、神楽、絶対俺が護つてやるからな！）

銀時はそう決心した

そのころ坂本の部屋では・・・

坂本（わしは銀時たちとほんとは対等に戦えるのかのお）

その時だった坂本の部屋に2人の男が入ってきた

1人は坂本を抑え突けもう1人は坂本に赤い薬を飲ませた

坂本は気絶してしまった

坂本が起きると目の前には大きな野獣が居た

坂本「おまんは、白虎」

白虎「久ぶりじゃないか辰馬」

坂本「おまん何しに来たんじゃ？」

白虎「俺と代われ」

坂本「はあ？おまんの力を借りなくとも銀時達と戦えるぜよ」

白虎「なに言ってるんのお前？」

剣の腕が落ちてるのに戦えるわけないだろ？

先生1人も護れないくせいに」

坂本「……なにを言ってもわしはおまんとは代わらんぜよ」

白虎「まあそんな抵抗できるのも時間の問題だぜ」

坂本「どういうことじゃ？」

白虎「さっきお前赤い薬のまされたじゃん

それは表と裏を変える薬なんだぜえ」

とって白虎は消えていった

坂本が目を覚ますと奇竜が居た

奇竜「辰馬だいぶんうなされてたけどだいじょうぶか？」

坂本「おかしな夢を見ただけぜよ」

奇竜「そうか……」

破者が集合しろだってよお」

坂本「わかったぜよ」

奇竜と坂本は銀時達のところへ向かった

破者「全員集まったようですね」

銀時「ああ」

破者「その服じゃ皆さん動きにくいでしょ？」

こっちのふくに着替えてください」

そこにあっただのは攘夷戦争の時に着ていた服と全く同じだった

銀魂―攘夷志士―第6話（後書き）

最後まで読んでくださってありがとうございますm（―）（―）m  
なんでもいいのでコメ書いてください（笑）

銀魂―攘夷志士―第7話（前書き）

どうも minami です！

銀魂―攘夷志士―第7話です！

誰か観想を書いてくれよ！

## 銀魂―攘夷志士―第7話

銀時「攘夷戦争ときの服とまったく同じじゃねーか」

高杉「まあ着替えようぜえ」

桂「ああそうだな」

銀時たちはその服に着替えた

破者「ああそうそう坂田さんと坂本さんは剣ないんでしたねえ

これを使ってください」

そういうと破者は銀時と坂本に剣を渡した

破者「じゃあターミナル行って下さい」

高杉「ああ」

銀時達はターミナルに向かった

奇竜「坂本、顔色悪いが大丈夫か？」

坂本「大丈夫じゃ・・・」

奇竜「ならいいが」

銀時達はターミナルに着いた

銀時「じゃあ行きますか！」

桂「ああ」

銀時達はターミナルを破壊し始めた

天人「お前ら何をしている？」

高杉「見てわからないのか？」

ターミナル破壊してんだよお」

5、6人位の天人が銀時に襲い掛かってきた  
すると見えない位の速さで天人を斬った

桂が見て見ると銀時の目つきが変わっていた

桂（攘夷戦争の時の目つきと同じだ）

高杉「まだまだ天人はくるぞお」

奇竜「ああ」

そのころ新撰組では・・・

山崎「局長ー」

局長室には近藤、土方、沖田が居た

近藤「なんだ、山崎？」

山崎「たいへんです、ターミナルが破壊されています!」

土方「なんだって」

山崎「情報によると5人組みだそうです!」

近藤「すぐ援護に行くぞ!」

山崎「3番隊から10番隊はパトロール中です」

近藤「1番隊と2番隊をつれてターミナルにすぐ向かうぞお」

新選組はすぐにターミナルへ向かった

土方「ターミナルを破壊するぐらいだ攘夷志士かか?」

近藤「ひとつわかってるのはそいつらがただ者じゃないって事だ」

新選組はターミナル着いた

土方「これ全部天人の死体だぞお」

近藤「1番隊2番隊は観客の非難、

トシと総悟は俺について来い」

近藤達はターミナル内に入った

土方「あいつは万事屋」



銀時は近藤達に気がついた

銀時「お前ら、さっさと帰りやがれ！

殺されてーのか？」

近藤「ここは引くぞ」

土方「なんでだよお近藤さん」

近藤「いいから引くぞ」

近藤は土方、沖田を引っぱって入り口に戻った

土方「何で引いたんだ近藤さん？」

近藤「あいつはもう万事屋の目じゃない・・・

本当に斬られる」

土方「このままターミナルが破壊されるのをみとけて言うのか？」

近藤「俺は、トシ、総悟が死ぬところを見たくない

万事屋も俺達を切りたくないはずだ

1番隊2番隊、新選組に戻るぞ」

近藤達は新選組に戻った

そのころターミナル内では・・・

坂本に7、8体位の天人が襲い掛かってきた

坂本の動きが変わった・・・

坂本の動きには無駄がなく、一瞬で7、8体の天人を斬った

奇竜「おまえ本当に辰馬か？」

坂本「ああ」

銀魂―攘夷志士―第7話（後書き）

最後まで読んでくださってありがとうございますm（）m  
次回予告

天人10万たぶん体VS攘夷志士

銀魂―攘夷志士―第8話（前書き）

どうも minami です！

銀魂―攘夷志士―第8話です！

天人10万體VS攘夷志士です。（多分・・・）

## 銀魂―攘夷志士―第8話

ターミナルは天人死体で溢れた

つぎつぎと銀時達は天人を斬って行った

すると大きな船が来てなかに居たのはものすごい数の天人だった

銀時「まだまだくるぞおおお」

高杉「ああわかってる」

桂「攘夷戦争以上の数の天人だなああ」

天人はいっせいに銀時達に襲い掛かった

すると坂本が見えない位のスピードで天人を斬って行った

銀時「奇竜、あれほんとに辰馬か？」

奇竜「いやあれは坂本じゃない」

桂「じゃあ誰なんだ？」

奇竜「みてみる坂本の目の色が変わってるだろお」

桂「ほんとだ、赤い……」

奇竜「たぶん俺の予想だが坂本の野獣だと思っている」

銀時「あの夜何かあったと言う事だな」

奇竜「ああ」

高杉「しゃべってねーで戦えええ」

銀時「今は戦いに集中しようぜええ」

桂「ああ」

銀時達は天人を斬って行った

その時また大きな船が来た

高杉「あれは春雨だ」

すると神威と阿伏兔が降りてきた

神威「あれって殺していいんだよね」

阿伏兔「ああ、いいらしいよ団長」

戦っている銀時を神威が見つけそくざに攻撃を仕掛けた

銀時「てめえは神威」

神威「久しぶりだねえ 白夜叉」

銀時と神威はすぐ戦闘になった

阿伏兔「高杉、てめえ裏切ったか」

高杉「まあそうだなあ」

阿伏兔「じゃあ殺すか」

高杉と阿伏兔は戦闘になった

銀時と神威はほぼ同じ戦力だった

だが神威の戦いに集中しすぎたせいで  
他の天人の攻撃をよけられず、銀時は足をうたれてしまった

銀魂―攘夷志士―第8話（後書き）

最後まで見てくださってありがとうございます（´）（´）  
次回予告

坂本VS神威



銀魂―攘夷志士―第9話（前書き）

どうも minami です！

銀魂―攘夷志士―第9話です！

坂本VS神威

## 銀魂―攘夷志士―第9話

桂「銀時大丈夫か？」

銀時「ああ」

神威「もうちょっと楽しませてよ」

すると目の前に坂本が来た

銀時「坂本、お前はあいつに勝てない」

坂本は銀時の話など聞いていなかった

神威「邪魔するつもりなら殺しちゃうぞ」

坂本「……」

坂本と神威の戦いが始まった

坂本は神威を押し去った

神威「君なかなかやるじゃないか」

坂本「……」

坂本の剣が神威の服にあたりすこしやぶれてしまった

神威（危ない危ない切られることだった）

神威「阿伏兔帰るよ」

阿伏兔「わかったよ団長」

神威（まだ白夜叉以外に面白い奴がいるんだなあ）

神威と阿伏兔は船に戻っていった

桂「立てるか銀時？」

銀時「ああ立てるさあ」

奇竜「敵は後もうちよつとだああ

気をぬくなああ」

高杉「ああ」

銀時たちは天人達をものすごい速さで倒していった

奇竜「はあはあはあ」

桂「勝った？」

高杉「ああそうだな」

銀時「まだやることがあるぜえ」

奇竜「ターミナル破壊・・・」

それから10分程度でターミナルは消えるようにして無くなった

銀時「船にもどるぞ」

桂「ああ」

銀魂―攘夷志士―第9話（後書き）

最後まで見てくださってありがとうございます（ ）（ ）  
コメください

銀魂―攘夷志士―第10話(前書き)

どうも minami です!

銀魂―攘夷志士―第10話です!

銀魂―攘夷志士―第10話

船の帰り道では坂本の目の色が青に戻っていた

奇竜「坂本、大丈夫か？」

坂本「大丈夫じゃ」

すると坂本が血を吐いていた

銀時「早く船に向かうぞお」

奇竜が坂本と腕を組んで帰った

坂本「すまんのお奇竜、ゴホ、ゴホ」

奇竜「あまりしゃべるな坂本」

銀時達は船に着いた

奇竜「坂本を部屋に連れて行ってくる」

銀時「ああ」

銀時、桂、高杉、は破者のもとへ着いた

破者「ああ、協力ありがとうございました」

銀時「てめえ、辰馬に何をした」

銀時の感情は怒りに変わった

破者「まあ、迷いがあるから、

戦場では迷いがある物死にますから

表と裏を変わってもらっただけです

言えば坂本さんの命の恩人です」

銀時「はあ？辰馬がそんなことのぞんできると思ってるのかああ」

桂「銀時それぐらいにしとけ

坂本が心配だ部屋に行くぞ」

銀時「わかったよ」

高杉「破者もう帰っていいんだよなあ？」

破者「いいですよ」

高杉は船を出て行った

銀時と桂は坂本の部屋に向かった

銀時「辰馬大丈夫か？」

坂本「ああだいじょうぶぜよ、

銀時、頼みがある、ゴホ、ゴホ」

銀時「なんだ？」



坂本「これを陸奥に渡してほしいぜよ

船は万事屋から西に行ったところにあるぜよ、ゴホ、ゴホ」

銀時「ああわかった」

銀時は走って快援隊の船に向かった

銀時「陸奥、坂本から手紙だぞおお、はあはあはあ」

陸奥「頭から手紙か」

銀時「じゃあ俺はこれで」

陸奥「おまん頭はどこに居る？」

銀時は陸奥の話を聞かずに  
行ってしまった

銀魂―攘夷志士―第10話（後書き）

最後まで見てくださってありがとうございます（一）（一）  
m

銀魂―攘夷志士―第11話(前書き)

どうも minami です!

銀魂―攘夷志士―11話です

銀魂―攘夷志士―第11話

陸奥が手紙を見て見ると

.....

陸奥へ

いろいろ迷惑をかけてすまない

わしは陸奥と居てすごく楽しかった

陸奥のおかげでいまのわしが居ると思う

おまえが居たから今の快援隊があると思う

わしは陸奥の知っているわしがいつ消えるかわからん

陸奥お前が快援隊を引っ張っていつてくれ

坂本 辰馬より

.....

陸奥は泣き崩れた

陸奥「頭.....

戻ってきてくれ.....」

そのころ破者の船では.....

桂「銀時、お前はどこに行くんだ？」

銀時「俺は神楽と新八を護らないといけないからな」

桂「そうか。

奇竜はどうするんだ？」

奇竜「まあ、坂本の病状が治ったらどこかいくかな」

坂本「銀時最後の頼みがある」

銀時「なんだ？」

坂本「わしを殺してくれ」

銀時・桂・奇竜「!？」

坂本「お願いじゃ」

銀時「なんでだよお」

坂本「もう覚悟は出来ている」

銀時「無理な頼みだ

もうそんなこと言うな」といって銀時は船を出た

桂も船を出た

銀魂―攘夷志士―第11話（後書き）

m ほんとに最後まで見てくださってありがとうございますm（―）

知らない方が幸せだったかもしれない・・・(前書き)

どうもminnaです！

また書いていくのでこれからもよろしくおねがいしますm( )

m

知らない方が幸せだったかもしれない・・・

銀時が万事屋に帰ると

神楽「新八、銀ちゃん帰ってきたアル」

新八「お帰りなさい銀さん

今までどこに行ってたんですか？」

銀時「同窓会だ・・・」

新八「そういえば坂本さんと奇竜さんは？」

銀時「まだ帰ってないと思う・・・」

神楽「銀ちゃん飲みすぎたアルか？」

銀時「ああ・・・」

新八「銀さん寝てたほうがいいですよ」

銀時「わかった・・・」

翌朝・・・

新八「銀さんまだ寝てますね」

神楽「銀ちゃんきつとなんかあったアルよ」



新八「そつだ！銀さんのためにイチゴ牛乳買ってこようよ」

神楽「それいいアル」

新八「じゃあ行くこつ」

新八と神楽は万事屋を出てコンビに着いた

新八「神楽ちゃんこれ見て・・・」

神楽「何あるか？」

- ターミナル崩壊
- 天人10万人死亡？
- 犯人はわかつておらず
- 目撃者からは5人だったそうです
- 他の情報では攘夷志士だった
- と言つ情報もある

新八「こんなことできるのつて・・・」

神楽「銀ちゃんはそんな事しないアル！」

新八「銀さんを信じよう」

知らない方が幸せだったかもしれない・・・（後書き）

もしよければ観想などを書いてもらえればうれしいです！

知らねばならない事

新八「イチゴ牛乳ってどこにあったんだっ たっけ」

神楽「ここにあったアル」

新八「ありがとう神楽ちゃん」

神楽「新八と帰るアルよ」

新八と神楽は万事屋に帰った

神楽「ただいまアル」

新八「まだ銀さん寝ているのかな」

神楽「銀ちゃんいないアルよ」

新八「机の上に紙があるよ」

神楽「銀ちゃん仕事に行ってくるって書いているアルよ」

ガラガラガラ

近藤「万事屋は居るか？」

新八「銀さんなら居ませんけど・・・」

近藤「そうか・・・」

新八「何かあつたんですか？」

近藤「・・・ターミナル崩壊事件って知ってるか？」

新八「知っていますけど」

近藤「その事件の犯人は・・・万事屋だ」

新八と神楽を驚いて言葉が出なかった

近藤「ほかの4人は新八君がもっている写真の人物だ」

新八「銀さん達が犯人だなんて信じられません・・・」

近藤「俺たちはみた万事屋がターミナルを破壊しているのを・・・」

新八「僕は絶対に銀さんがそんな事したなんて信じません」

神楽「わたしもアル」

## 再会

新八「神楽ちゃん銀さん探しに行きますよ!」

神楽「わかったアル」

新八、神楽は万事屋を出て行った

その数分前・・・

銀時は起きた

銀時「新八と神楽がないな」

プルプルプル

銀時「万事屋銀ちゃんですけど」

破者「白夜叉、今回も働いてもらいますよ」

銀時「はあ?」

破者「こちらには人質がいるんですよ」

銀時「・・・わかった」

破者「じゃあ私の船に来てください」

銀時は電話を切って万事屋を出た

桂「銀時どこに行くんだ？」

銀時「ズラか、破者にまた呼ばれたんだ」

桂「ズラじゃない桂だ！」

銀時「俺も呼ばれたからズラも呼ばれるんじゃないか」

桂「ズラじゃない桂だ！じゃあ一緒に行くぞ銀時」

銀時「おう」

銀時、桂は破者の船に着いた

奇竜「よお銀時、ズラ」

銀時「奇竜、辰馬の調子はどうだ？」

奇竜「出血は治まった」

銀時「そうか」

## 新たな目的

破者「これで全員そろいましたね」

奇竜「貴様は何を企んでいるだ？」

破者「私の企みを知ったところで貴方達に阻止できるとは思えませんが」

奇竜「破者一っだけききてえことがある」

破者「なんですか？」

奇竜「昔俺達に会った事あるか？」

破者「ないですけど」

奇竜「そうか・・・」

高杉「次の仕事はなんだあ？」



破者「かぶきの町を壊して欲しいのです」

銀時「はあ？」

破者「だからかぶき町を壊して欲しいのですよ、

白夜叉、何回も言わせないでくださいよ」

銀時「なんで俺達の町を壊さねーといけないんだ？」

破者「理由なんてありませんよ」

銀時「てめえ！」

銀時の表情に殺意が感じられ今でも  
切りかかるうとしているようだ

桂「おさえろ、銀時」

破者「3日以内に終わらせて下さいね

一つ忠告しときますね

私の管轄内でおかしなことを

「しないでくださいね」

## 新たな目的（後書き）

キャラクター紹介

今回紹介するのは奇竜さんです

名前 藤原 奇竜

誕生日 9月7日

身長 175cm

体重 60kg

年齢 20代

髪の毛 黒色 ショートカット

好きな食べ物 団子

## 変化

桂「いったん各自の部屋に戻ろう」

奇竜「それもそうだな」

桂たちは各自の部屋に向かった

銀時（どうすれば神楽たちを守れるんだ・・・）

するとドアが開いた

銀時「誰だ？」

部屋に2人の男と破者が入ってきた

破者「白夜叉を抑えろ」

2人の男は銀時を抑えた

銀時「俺に何するつもりだ？」

破者は銀時に青い薬を飲ませた

銀時「やめろおおお！」

破者（だいぶ、薬が効いているようだ……）

破者達は銀時の部屋から出て行った

銀時「くそおおおおお！」

## 変化（後書き）

今回は破者についての紹介です

名前 破者？

誕生日 不明

身長 178CM

体重 不明

年齢 20代

髪の毛の色 茶色

特長 顔に仮面を被っているので

顔が見えない

闇・・・（前書き）

銀時「俺なんか変な薬の飲まされちゃったよ」

桂「銀時今日はお前の出番がないんだぞ」

奇竜「その次も銀時の出番がないらしいよ」

銀時「え・・・」

闇・・・

そのころ奇竜の部屋では・・・

桂「入るぞ藤原」

奇竜「なんだズラか・・・」

桂「ズラじゃない桂だ！」

奇竜「なんか俺に用か？」

桂「話を聞きたい」

奇竜「辰馬のことか？」

桂「そうだ、なぜ坂本に野獣がいる？」

奇竜「野獣つてのは心の闇から生まれたもんだ、  
誰の心にも闇はある」



桂「闇か……」

奇竜「ちょっと昔の話をしていいか？」

桂「いいぞ」

奇竜「俺が6歳の時ある塾があつたんだ

そこで俺は坂本と先生にあつた

先生は勝海舟って名前のんだ」

桂「先生か……」

過去編―星―(前書き)

今回は奇竜と坂本の過去です

過去編―星―

海舟「今日入った藤原奇竜くんです。」

奇竜「藤原奇竜です、よろしくおねがいします」

海舟「奇竜くんは坂本くんの隣で」

奇竜は坂本の隣に座った

坂本「奇竜、よろしくな」

奇竜「よろしく」

坂本「奇竜はどこから来たんじゃ？」

奇竜「薩摩から」

坂本「今日はこの村を案内したる」

坂本は奇竜の引っ張っていった

坂本「ここがわしの一番のお気に入り場所じゃ」

そこは丘の上だった

坂本「ここは星が一番見える場所なんじゃ」

奇竜「星……」

坂本「星はこんな真っ暗な闇の中でも輝き続けとる」

奇竜「闇の中にも小さな光がある

たとえ闇がどんなに深くてもってことか」

坂本「そういうことじゃ」

奇竜「今日は星を見ながらねるか」

坂本「そうじゃな」

過去編―天人―

それから4年後、辰馬、奇竜は10歳になった

坂本「もう免許皆伝か……」

奇竜「俺も後もうちょっとで免許皆伝だ・  
星を見にいこう」

坂本「わかったぜよ」

奇竜たちは丘に向かった

坂本「あそこに誰かいるぜよ」

丘の上に3人の人影が見えた

奇竜「あれは……天人<sup>あまんと</sup>」

坂本「天人？」

奇竜「地球に攻めてきた奴らだ」

坂本「どうするんだ」

奇竜「俺達でなんとかしよう」

坂本「先生を呼んだほうがいいと思っぜよ」

奇竜「早くしないと村に被害が出るかもしれないぞ」

坂本「・・・・・・・・」

奇竜が剣を握った

奇竜「いくぞ」

奇竜が1人の天人に切りかかった

「ほう、子供か・・・だが」

奇竜の攻撃がかわされた

天人が奇竜の髪の毛を持った

「同じで殺しておくか？」

坂本「!？」

「まだ利用価値がある、生かしておけ」

「おい、ガキ攘夷志士の居場所を教えろ」

奇竜「しらねえよ」

「お前が今、生かされていることをわかっているのか？」

天人が奇竜を殴った



## 過去編―剣―

「口の堅い小僧だ」

「もう殺してもかまわん」と1人の天人が言った

するとズシ

奇竜「辰馬!？」

坂本が1人の天人を剣で刺した

「ああ1人死んじゃったよ」

「ここは引かせてもらおうぞ人間」と言っ  
て天人はどこかに行ってしまった

坂本「大丈夫か奇竜」

奇竜「ああ」

坂本「帰るぜよ」

そのころ・・・

「あいつら殺さないでよかったの？」

「いつかわれわれの前に現れるだろ」

「それより攘夷志士の居場所わかったの？」

「あの小僧達は剣を持っていた、だがほかの村には剣など無かった」

「あの村にはいるってことかあ」

「そうだ。」

明日には村を火の海にせねばならない」

「明日が楽しみだな」

過去編―異変―

奇竜「先生」

海舟「どうしたんですか？」

奇竜「さっき丘の上に天人がいました」

海舟「天人！？」

奇竜「1人、辰馬が倒しました」

海舟「天人が来たということは……………」

奇竜「どうしたんですか？」

海舟「奇竜くん、坂本くんを呼んできてください」

奇竜「はい」

奇竜は坂本のもとに向かった

奇竜「辰馬ー！」

坂本「奇竜か、

何じゃ？」

奇竜「先生が呼んでいるぞ」

坂本「ゴホ、ゴホ」

奇竜「どうした辰馬？」

坂本「はあ、はあ

大丈夫じゃ」

奇竜「早く先生のところへ行こう」

過去編―巻物―

奇竜「先生！辰馬呼んできました」

海舟「奇竜くん、坂本くんよく聞いてください。

明日ここに天人が攻めてきます」

奇竜・坂本「!?!」

海舟「狙いは攘夷志士でしょう」

奇竜「でもこの村には攘夷志士はいないはず……」

海舟「この村には攘夷志士がいます」

坂本「先生！一つ聞きたいことがあるぜよ」

海舟「なんですか？」

坂本「先生は・・・元攘夷志士じゃなか？」

海舟「・・・」

坂本「先生こたえてくれぜよ」

海舟「坂本くんが言うように私は元攘夷志士です」

奇竜「先生が元攘夷志士・・・？」

海舟「だからこそ天人あまんとの動きがわかるのです」

奇竜「明日先生は天人と戦うんですか？」

海舟「たぶん、戦うことになるでしょう」

坂本「……………」

海舟「坂本くんに託したいものがあります」

坂本「なにぜよ」

海舟は坂本に巻物を渡した

海舟「もし私に何かあったときこの巻物が役に立つでしょう」

過去編―大事なもの―

「もう、僕は行くよ」

「そうあせるな終焉」

終焉「行かせてくれてもいいよね？」

「上司に逆らうか？」

終焉「あんたが言うなら仕方ないか・・・」

「奏功様、まもなく準備が整います。」

奏功「そうか・・・」

終焉「じゃあ僕が指揮を・・・」



奏功「私が指揮を執る」

終焉「あなたが指揮を執るなんて珍しいね」

奏功「終焉、私の補佐につけ」

終焉「わかったよ」

そのころ……

海舟「もうすぐ天人が来るでしょう」

奇竜「俺達は何をすればいいですか？」

海舟「村人の非難を頼みます」

奇竜「辰馬、いくぞ」

坂本「わかったぜよ」

奇竜と坂本は村人の非難に向かった

奇竜「辰馬そつちは全員非難させたか？」

坂本「できたぜよ」

奇竜「あれは……」

奇竜が指さした方向には天人の大群がこちらに向かっ  
てきていた

坂本「もう天人が来たか……」

奇竜「先生、天人が来ました！」

海舟「奇竜くん、坂本くんあなた達もここから逃げなさい」

奇竜「俺達も、戦います！」

海舟「あなた達が戦っても無駄に命を落とすだけです」

坂本「奇竜、いくぜよ……」

坂本が奇竜の手を引っ張った

奇竜「なにすんだ辰馬」

「  
.  
.  
.  
.  
.  
.  
.  
.  
」

坂本「たのみましたよ坂本くん」

過去編―強者―

奇竜「天人！」  
あまんと

終焉「やあ、人間くん」

海舟「坂本くん、奇竜くん早く逃げなさい！」

終焉「そうはさせないよ」

終焉が坂本と奇竜の行く手を阻んだ

海舟「あなたの相手は私です！」

海舟が終焉に攻撃した

終焉「これが侍の力か……」

海舟「坂本くん新手がくるので早く逃げなさい！」

するともう一人の天人が来た

終焉「奏功さん遅いじゃないですか」

奏功「少してこずっただけだ

だが、ここで最後だ」

終焉「あなたの仲間は？」

奏功「全滅だ」

終焉「まあ弱いからしょうがないか」

奏功「侍、貴様らで最後だ」

## 過去編―取引―

奇竜「辰馬、俺達であいつを倒すぞ」

坂本「わかったぜよ」

奇竜と坂本は奏功に刀を向けた

奏功「小僧共私を倒せると思っているのか？」

奇竜「倒せると思ってなかったらお前なんか挑んでねえよ」

奏功「すぐに楽にさせてやるっ」

終焉「人間さん取引をしませんか？」



海舟「この状況で天人と取引すると思えますか？」

終焉「この状況だからこそ取引するんですよ」

海舟「どういふことですか？」

終焉「そこにいる天人を殺してほしい」

海舟「!？」

終焉「殺してもらえればあなたもあの子達も逃してあげましょう」

海舟「仲間じゃないのですか？」

終焉「あんな奴仲間じゃありませんよ」

海舟「もし、あの天人を倒して、私を殺したとすればどうするんですか？」

終焉「あなたの弟子が僕を殺すでしょうね」

海舟「・・・・・・・・・・」

奏功「お前らの力はそんなものか？」

奇竜（なんだこいつ、戦術がまるで読めない・・・・・・・・）

奏功「そろそろ終わらせるか」

奏功の攻撃が急に速くなった

坂本「大丈夫か、奇竜」

奇竜「ああ」

坂本が奏功を攻撃した

奏功「邪魔だ」

奏功が坂本を攻撃しようとした瞬間

グサ

奏功「なっ・・・何だと・・・」

海舟が奏功を刀で突き刺した

過去編―選択―

終焉「奏功さんあなたの下ではもうは働きません」

奏功「貴様、裏切りつたか……」

終焉「では俺はここで……」

終焉は村を出た

奏功「おのれ侍め……だが私はこの程度で死なん！」

奏功が刺さっている刀を抜いた

奇竜「先生援護します」

奏功「動くな、この小僧がどうなっても良いのか？」

奏功は坂本に剣を向けた

海舟「!？」

奏功「小僧、その侍を殺せ、そうすればこいつを殺さないでやろう」

海舟「奇竜くん、私を殺さない」

奇竜「でも……」

海舟「殺さない!!」

奇竜「無理です!!」

海舟「坂本くんが死んでもいいのですか」

奇竜「……」

過去編―決断―

海舟「塾のしきたりはわすれてませんよね」

奇竜「先生、すみません」

奇竜が刀を構えた

海舟「いいのですよ奇竜くん」

坂本「奇竜やめろ！」

奇竜が海舟を斬った



奏功「ふははははは」

グサ

坂本が奏功の足を刺した

奏功「何・・・」

一瞬で刀を抜き奏功の頭を刺した

奇竜が坂本の目を見た

奇竜「辰馬、お前目が・・・赤いぞ」

坂本「・・・・・・・・」

坂本が倒れた

奇竜「大丈夫か辰馬！」

奇竜が坂本の目をもう一度見ると普段の目の色に戻っていた

奇竜「しっかりしろよ辰馬！」

坂本「……………奇竜か……………」

坂本が起き上がった

奇竜「先生、大丈夫ですか？」

海舟「奇竜くん、私はもう長くない」

奇竜「何言ってますか先生」

海舟「坂本くん、奇竜くん、これが最後の頼みです」

奇竜「何ですか？」

海舟「この国・・・この侍の国を守ってください。」

海舟の上に木が落ちてきた

坂本「先生！」

その翌日、村は焼け、奇竜と坂本は巻物に書いてあった場所に向かった

奇竜「ここが、印してあったところか・・・」

そこには村があった

「君達、海舟の弟子？」

奇竜「なぜ先生の名前を？」

「私は海舟の姉よ」

坂本「先生が残したものは何ぜよ」

「じじいじゃ話しにくいは、私の家で話しましょう」

過去編―未来へ―

美月「そういえば、自己紹介が遅れたわね。  
私の名前は美月<sup>ミスキ</sup>」

奇竜「俺は奇竜、そっちが辰馬だ」

美月「海舟は死んだの？」

坂本「わしのせいじゃ……。」

奇竜「俺が殺しました」

美月「まああなた達を守って死んだのね」

奇竜「はい……」

美月「まあ、そんな事引きずってても何も変わらないわ」

奇竜「でも……」

美月「それじゃあ、いつまでたっても前に進めないわ、

あなた達は前に進まなきゃ、守ってもらった意味が無いわ」

奇竜「わかりました……」

美月「海舟が残したものはこれよ」

美月が兜と刀を出した

奇竜「これは……」

美月「これは海舟が攘夷志士の時に使っていた物よ」

奇竜「これを俺らに？」

美月「海舟はこの国を守ってほしいとあなた達に託したのでしょ  
あなた達でこの国を守らなきゃ」



奇竜「はい！」

桂「坂本にそんな過去が会ったとは……」

奇竜「俺は用事があるからここで待っていてくれないか？」

桂「ああわかったが、どこにいくんだ？」

奇竜は部屋から出て行った

破者「どつちから客が来たようですね」

奇竜「破者、いや拓也といったほうがいいか？」

破者は仮面を外した

奇竜「拓也なぜお前はこんな事をしてるんだよ？」

拓也「復讐ですよ」

奇竜「ならなぜ銀時達を巻き込む」

拓也「この世界を変えるためですよ」

奇竜「お前はそんな奴じゃなかったはずだ！

まだ今なら間に合う、こんなことやめる！」

拓也「……………」

## 役目

奇竜「ここまで言ってもきかねえなら仕方が無い  
お前を斬ろう」

奇竜は刀を抜いた

拓也「まだ時間があるので良いでしょう、相手になってあげましょ  
う」

拓也が刀を奇竜に向けた

キーン

拓也「奇竜、今日は何の日か知ってるか？」

奇竜「2月29日だが・・・まさか」

拓也「そう閏年だ」

奇竜「お前まさか神獣の力を・・・」

拓也「そつだよ」

奇竜「江戸を滅ぼすきか」

拓也「そうさ」

奇竜「そんなこと俺がさせない」

奇竜の右目が赤に変わった

拓也「千里眼か・・・」

奇竜「よく知ってるな」

拓也「そろそろ時間か」

奇竜が拓也に斬りかかった

キーン

奇竜「銀時!？」

銀時「……………」

奇竜「拓也お前、銀時なにをした？」

拓也「さあ……………」

奇竜「銀時目を覚ませ!」



拓也「俺を斬る事は出来ても、  
銀時を斬る事は出来ないだろ」

キーン

銀時が奇竜を押ししていく

グサッ

奇竜「ぐう

んがあああああ

奇竜は肩を刺された

拓也「奇竜まだ殺さないさ

お前には役目が残っているからな

## 仮面

1人の男が入ってきた

「破者様、準備が整いました」

拓也「そうか、こいつをあの場所に連れて行け」と言っ  
て仮面を被った

「はい」

男は奇竜を鎖で縛り、銀時と部屋を出た

拓也「これで俺の夢が叶う……」

奇竜「ここは……」

桂「大丈夫か奇竜？」

奇竜「肩を少しやられただけだ。  
しかしここはどこだ？」

桂「お前が部屋を出た後、  
銀時が部屋に来てそこから記憶が無いんだ」

奇竜「銀時、高杉、坂本はどうしたんだ？」

桂「まだ気を失っているようだが」

奇竜「みんな鎖で縛られているのか？」

桂「ああそれに首輪のような物もつけられている」

部屋のドアが開いた

拓也「役人はそろったか……」

床が光り始めた

奇竜「やめろおおお」

奇竜が息を荒くし始めた

桂「!？」

奇竜の目が赤くなり始めた

奇竜「ああああああああああ！」

奇竜の姿が変わり始めた

桂「何をした破者？」

拓也「いずれあなたにも起こる事ですよ」

桂が奇竜の姿を見ると

桂「あれは龍？」

そこには奇竜ではなく金に輝く龍がいた



拓也「次はあなたですよ桂さん」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0189s/>

---

銀魂－攘夷志士－

2011年11月22日02時00分発行